



# TRICK STAR



## FIM Asia Road Racing Championship 2016

### ROUND2 Chang International Circuit , Thailand

## 参戦報告書

- エントリー名 : TRICK STAR Racing
- 監督 : 鶴田 竜二
- ライダー/ゼッケン : 山本剛大(#1)  
田中 歩(#82)
- 開催日/サーキット : 2016年5月5日(木)~5月8日(日)  
Chang International Circuit (Buriram Thailand)
- マシン : カワサキNinja250
- 結果 : 山本剛大 レース1 11位      レース2 優勝  
田中 歩      レース1 5位      レース2 リタイヤ

2016アジアロードレースチャンピオンシップ (ARRC) 第2戦はタイランド・チャン インターナショナルサーキットで開催された。前回 第1戦マレーシアでの結果を考慮し、約1ヶ月でマシンに大幅なアップデートを施しサーキット入りする。しかし、新しく生まれ変わったマシンでの実走テストは殆ど行えず、レースウィークでのエンジン慣らし走行から、他パーツの走行確認や調整が必要になり、限られた時間の中でのセットアップが求められた。



### 【5月7日(土) 公式予選】

Qualify 9:50~10:20 天候:晴れ コース:ドライ  
気温:33℃ 路面温度:56℃

前日に公式練習が3回行われ、マシンチェックからセットアップに費やし公式予選に臨んだ。公式予選開始後、計測1周目から山本剛大選手・田中歩選手ともタイミングモニターに掲示されるトップスピードが190kmを超えてきていた。昨年の実績で190kmは超えていたが、決勝中のスリップストリームが効いた状態での数値だったが、今回はまだ本格的にタイムアタックに入っていない状況での190kmオーバー。

山本剛大選手は計測2周目に198.2Kmの最速を記録し、ポジションが5番手。田中歩選手は194.2kmでポジション6番手。各周回毎にモニターをチェックしていたが、確実に190kmをマークしながら予選を進めていく。山本剛大選手、計測5周目にはポジション3番手。田中歩選手も直ぐさま計測5周目にポジション2番手に上がってくる。田中歩選手は計測6周目のセクター2で全体のベストタイムを記録しタイムを1分55秒890まで伸ばしてくるがポジション3番手。

一度、2人ともピットインし状況確認と、マシンに対するコメントをメカニックに伝える。そのコメントに対し、メカニックがサスペンションのセッティングをアジャストしピットから出ていく。田中歩選手はセッティング変更を確認しながら3周を走行しチェッカーを受ける。山本剛大選手は再スタート後、単独での走行だったがタイムを更新していく。サスペンションセッティングが良い方向だったようだ。そして1分56秒149までタイムを伸ばし4番手で公式予選を終了する。田中歩選手はピットイン前に記録した1分55秒890で公式予選3番手で終える。

## 【5月7日(土) 決勝レース1】

Final 1 15:05～ 10LAP

天候:晴れ コース:ドライ 気温:35℃ 路面温度:60℃

スタート、山本選手は上手く決めたが田中選手は少し出遅れてしまう。しかし3コーナーでは田中選手が3番手・山本選手は4番手で進入する。2人ともストレートスピードを活かしている。

1周目終了時点で、田中選手が前の2台にピッタリと着け3番手で通過。山本選手も他の選手の動きを見ながら4番手に着ける。2周目3コーナー進入までのストレートで2人は前のYAMAHA勢を抜き、山本選手がトップで進入、田中選手が2番手で進入する。5コーナーでは田中選手がトップ。山本選手は田中選手にピッタリと着けていたYAMAHA勢を前に行かせ5番手。2周目終了時点で田中選手が3番手、山本選手が5番手。

4周目の3コーナーから4コーナーまでのストレートで山本選手がトップ、そして田中選手は2番手に上がるが、4コーナー・5コーナーへの進入で、田中選手は8台のトップグループの後方までポジションダウンしてしまう。少しでも隙間があればインを刺し、目まぐるしくポジションが入れ替わる。

6周目最終コーナーまで山本選手はトップで後続を引っ張るが、2人の後続ライダーがインに飛び込んできた。その内の1人がスリップダウンし転倒してしまう。転倒したマシンが山本選手のマシンに危うく接触しそうになるが、間一髪かわすことができた。

7周目5コーナーではトップを山本選手、2番手に田中選手が上がってきた。8周目も山本選手は後続のYAMAHA勢を抑え、残り2周の9周目に入る。

9周目の3コーナーから4コーナーストレートでは山本選手がトップ、田中選手は6番手。しかし4コーナー進入では山本選手のインに後続が無理に入ってきて、山本選手は4番手。田中選手は5番手になる。最終ラップには田中選手が4番手、山本選手が5番手で入る。そして2コーナーから3コーナーまでに山本選手は3台を抜き、さらにもう1台を抜こうと3コーナー進入のイン側からコーナーにアプローチする。しかし、通常のラインから外れており、フロントタイヤからスリップダウン 転倒してしまう。

トップグループは6台に絞られ、田中選手は5コーナーから後半セクションで何とか表彰台圏内に上がろうとしている。

最終コーナー進入は4番手だったが、インに飛び込んでくるのを意識しすぎたのか、コーナー立ち上がりで後続に先行され5番手でチェッカーを受ける。

山本選手は転倒後、直ぐにマシンを起し再スタートし11位でゴールする。





**【5月8日(日) 決勝レース2】**

Final 2 15:05～ 10LAP

天候:晴れ コース:ドライ 気温:34℃ 路面温度64℃

決勝レース2のスタートは山本選手が失敗し、田中選手はまずまずのスタートを切った。

1コーナー立ち上がりのポジションは田中選手が5番手、山本選手は7番手。最終コーナーから1周目終了時点では、田中選手が4番手、山本選手は6番手に着ける。

2周目3コーナー進入では田中選手は3番手、山本選手は5番手に上がる。3周目には山本選手が3番手、田中選手が4番手で突入する。2番手との差は0.7秒。

4周目、山本選手は3番手に着け、田中選手は6番手で伺う。後半セクションで田中選手は4番手までポジションアップしてくる。

5周目の3コーナーまでのストレートで2番手と約1秒の差があったが、山本選手はトップに躍り出る。田中選手は4番手で3コーナーに進入する。その頃、6台のトップグループが形成される。

6周目には田中選手が2番手、山本選手が4番手で入る。3コーナー立ち上がりまでポジションに変化は無かったが、4コーナー進入で一気に3台を抜き、山本選手がトップにポジションアップする。一方、田中選手は3番手。

しかし、レースも残り周回数が少なくなり、各車ポジション争いが激しくなる。そして走行ラインを大きく振ってくるライバルが出だし、山本選手はコース外に追いやられてしまい7番手までポジションダウンする。田中選手は2番手を走行。7周目の4コーナー進入で田中選手がトップになろうかとモニターでは見れたが、少しラインが膨らんだのか、そこに3台のライバルが入ってくる。

少しでも隙を見せると容赦なく入ってくる激しいポジション争いが行われている。

8周目の3コーナーから4コーナーへのストレートでは、田中選手が4番手、山本選手が8番手を走行。

9周目に田中選手が5番手、山本選手が7番手で入るが、4コーナーから5コーナーにかけて田中選手がトップ、山本選手が2番手にポジションアップする。

このままトップを死守しようとしたのか、6コーナー立ち上がりで田中選手がハイサイド転倒してしまう。

その影響でグループが少しばらけた。

最終ラップに山本選手がトップで入り、後続に4台のYAMAHA勢が続く。

3コーナー立ち上がりでは4番手だが、4コーナーでは2番手に。そして5コーナー進入でトップにポジションアップ。ラインがクロスになり6コーナーまでに1台を先行させた。

2番手のまま最終コーナーまで後続を抑え、更に狙いすましたかのように最終コーナー進入で先行させたライバルを抜き去り、トップでチェッカーを受け優勝する。

走行ライン上で転倒した田中選手は、幸いなことに後続と接触することなく、また怪我も無かった。



## 【ライダー 山本 剛大 選手 コメント】

### 予選 4位

今回のレースからマシンの仕様が大幅にアップデートされました。内容はカウルの変更、ラム圧(空気をエアークリーナーBOXへ導き、多くの混合空気をエンジン・シリンダー内に入れる)の形状変更、ポジション変更などです。

仕様変更により、1からのセッティングとなり走行を重ねる毎にセッティングを詰めていったものの、タイムを出しに行くよりまだまだセッティングを行うことがメインの予選となりました。予選序盤はマシンの状況を把握する走行に徹し、ピットイン。ピットイン時にセッティングを変更しピットアウトしてからは単独での走行でしたが、セッティングが上手く機能しベストタイムを更新して4番グリッドを獲得しました。単独での好タイムでしたのでレースに向けて自信が持てる内容となりました。

### Race1 11位

スタートはまずまずのスタートでしたが、レース序盤は全体の流れを把握するために集団の中盤で前に出るタイミングを伺いながら様子を見ていました。4周目あたりにライバル達がバラケ始めたタイミングを狙い、前に出てアタックを仕掛けました。その後4周ほど抜かれる事なくトップを引っ張りましたが、後続を引き離すまでには至らず、ライバル達に捕まり順位を落としてしまいました。最終ラップ、ロングストレートから3コーナーでインを刺して一気にトップに立ちましたが、グリップの悪い新しい路面に入った瞬間フロントからスリップダウン転倒してしまいました。

その後、直ぐに再スタートして11位でチェッカーを受けました。

マシンの戦闘力が大幅にアップして優勝を狙えるレースだっただけに転倒は残念でしたが、優勝を狙えるところに戻ってこれたことに喜びを感じることができたレースでした。

### Race2 優勝

やっと勝てました！！

開幕戦終了時点では考えられないリザルトです。

レースはスタートを失敗してしまい中盤に埋もれてしまいました。その間にトップ2台が1秒程逃げてしまいましたが、予選・朝のフリー走行での単独アタックでのベストタイムには自信があったのでプッシュして直ぐに追いつく事が出来ました。その後のレースはかなりの混戦になり、ラインを大幅に振り危険だと思える行為もいつも以上に目立ちました。

しかし、ストレートスピードとブレーキングには自信があったので周りの様子に注意しながら最終コーナーで勝負を仕掛けるようにレースを組み立てていきました。

レース2はチームメイトの田中歩選手との連携も上手く取れていた為、ライバル達に好き勝手にはさせない事ができていました。なので、レース1よりは自分の展開に持ち込みやすかったです。

混戦のまま迎えた最終ラップ、今回のレースの注意ポイントである5コーナーを2位で通過し、そのままの順位で最終コーナー手前のS字コーナーを抜けました。前車のスリップから真横まで並び狙い通り最終コーナーでブレーキング勝負を仕掛けトップに立ち、そのままトップチェッカーを受けました！

ここまで辿り着くのにはとても長く感じました。

開幕戦ジョホールが終了後、このままの状態では手も足も出すことが出来ない、優勝なんか程遠いと監督に打ち明けました。

その事をチーム全体で深刻にとらえ、短い1ヶ月という期間の中で勝負が出来る最高のマシンを造りあげてくれました。

特にカウルの変更、ラム圧の変更、ポジションの変更は、今回の勝利にはとても重要でした。

A-TECH様を始め、チーフメカの中山さん、トリックスターレーシングに関わる全ての方々の力に支えられ今回の1勝を上げる事が出来ました！！

皆様の日頃からの応援、心強いサポートへの感謝を、もっともっと優勝という最高のリザルトでお返しができるように頑張ります。

応援ありがとうございました。



【ライダー 田中 歩 選手 コメント】

予選 3位

今大会からマシンをアップデートして頂いたおかげで、他チームと互角に戦えるマシンになり、フリー走行から予選まで着実にタイムアップをする事ができました。

予選タイヤはレース1でも使うタイヤなので3周以内でタイムを出せるよう心掛け、結果フロントローに並ぶことができました。

Race1 5位

レース1は序盤からトップ集団に着けていましたが、最終ラップでのポジションが悪くトップとの差が開いてしまいました。最終コーナーで少しでも挽回しようと4番手に上がりましたが、進入で突っ込みすぎてしまいクロスラインで抜き返されて5位でゴールしました。

Race2 リタイヤ

レース2はレース1の反省点を活かし作戦通りトップに立つまでは良かったのですが、自分のミスで転倒してしまい、リタイヤとなってしまいました。

今大会も結果を残す事が出来ず、凄く悔しいです。

しかしバイクが改善されマージンを持って戦えることが分かったので、次戦の鈴鹿では優勝目指して頑張ります。

何時も応援して頂いているスポンサー様、そしてファンの皆様、ありがとうございます。

引き続き、応援 よろしくお願ひします。

田中 歩





# TRICK STAR

## 【監督 鶴田竜二 コメント】

改めまして、いつもご支援頂いているスポンサー様、サポートを頂いている皆さま、熱い応援を頂いているファンの皆様、各関係者様、御蔭をもちまして優勝することができました。

とても感謝しております。  
本当に有難うございました。

前回のマレーシア戦で大敗をしてしまい、我々チームとしては受け入れ難い屈辱を感じました。しかしライバルチームとの歴然としたマシンのポテンシャルの差を感じ、それを受け入れる事から始め、第2戦までの1ヶ月でどれだけ挽回するかを徹底しました。レースの帰り道、山本選手とチーフメカと改善策を模索し、帰国後チーム全体会議も行き、抜本的かつ物理的に限られた時間の中で、何をどのように進めるのかを話し合い、役割分担を徹底し、日々進捗を確認し合い進めました。

問題点・改善点は色々ありましたが、根本的な事はまずマシンのポテンシャルが劣っているので、それがどこなのかを探り進めました。  
昨年から今年のレギュレーションで大きく変更されたのがカウリング変更とラムエアシステムの導入でした。

ライバルであるタイYAMAHAチームは既に昨年最終戦にはラムエアシステムに近い物がマシンに装着されていました。それを見て慌てて抗議し、なんとかそれは使用しないようになりましたが、我々の知らないところでレギュレーションに組み込まれる前から開発が進んでいた為、シーズン開幕ではその差がかなり大きく浮彫りになりました。

我々も怠けていた訳ではありませんでしたが、足りていなかったと言う事です。それを踏まえ、今回は日頃よりレース用カウリングのサポートを頂いているカーボンパーツやFRP製品の先駆者のメーカーであるA-TECHの宮崎社長に相談したところ、我々の要望を快諾して頂き、カウリングとラムエアシステムの新規作成をこの短期間約20日間で一から製作して頂きました。その御蔭で昨年同様トップスピードのアドバンテージが復活し互角に戦えることが可能になったのです。本当に宮崎社長を始めA-TECH社には感謝してもしきれないくらいの対応をして頂きました。恩返しは勝って返すと決めていましたので、それが叶って良かったです。

レースウィークに入りエンジンも新しくしたので先ず1回目の走行は所謂ナラシ走行からはじめました。ほぼ1本目の走行はそれに費やしたので予選までに新型のカウリングとラムエアシステム、それに伴うポジションの調整と、やる事は山ほどありました。それをなんとか限られた時間内で効率よく進める為チームが良く連携をとり、知恵をしぼり、力を合わせ進めました。時にはそれぞれの主張でぶつかり合う事もありましたが目的は1つなのでその中で良い選択をチームとして選び作り上げて行きました。

2回目の走行より3回目、3回目より予選、予選より決勝と、回を重ねる走行の度に確実にスピードを上げ、それに伴いタイムを上げて行きました。

レース1ではトップ争いの主導権を取れる位置まで来てましたが、何か今ひとつ歯車が噛み合わなくその結果、山本選手が最終ラップの3コーナー進入でトップにたった途端転倒を起こしてしまい再スタートするも11位となり田中選手も良い位置にいながら表彰台を逃す5位でフィニッシュとチームとしては望んだ結果から大きくかけ離れました。

その結果を受け我々は分析しました。何故それぞれ能力の高い両選手が速いマシンにのり結果に結びつけないのかをしっかりと考えました。

その原因のひとつは田中選手の走りにありました。まだトップ争いの経験が少ない彼のレース展開の組み立て方がチームメイトの山本選手の走りを翻弄する結果になっていたと分析できました。ですからレース2を勝つ為にチームとしてどう攻略すべきかをライダー各々とライダー同士でお互い話し合うことを行いました。

もともとレースは個人競技ですからそれぞれのライダーはライバルでもあるので、なかなかそれを理解するのが難しいのですが、現に我々は今年のライバルであるタイYAMAHAのチームにそのチームプレーでやられてしまっているのがこのまま個々で臨んでいては勝つチャンスが小さくなります。それを踏まえて個人が勝つ上でもチームメイトを上手く味方につけ、お互いの結果を導き出す事が最善だと彼ら自身も認識出来たのです。

誤解しないで頂きたいのですが、チームを組んで反則まがいなプレイをするのではなく逆に反則まがいなラフプレイからお互いを守りながら進める為の作戦なのです。その結果両選手はそれを実行し、レース2は見違えるほど安心して見てとれるほど主導権を取った内容になっていました。残念なことに残り2周トップにたった田中選手が転倒してしまい彼自身の結果は残らなかったです。しかしチームとしては山本選手が最後勝負を仕掛けれるお膳立てを彼がしっかりとやってくれた甲斐もあり、最後は実力が勝る山本選手が狙い澄ました様にきっちり最終コーナー進入でトップのインを刺し逆転勝利を掴んでくれました。昨年まではマシンの仕様から進入のブレーキングに難があって本来の山本選手の持ち味であるレートブレーキングが活かし切れなかったのですが、カウリングの変更によりポジションが変わった事により、今まで封印されていたそれが復活するという副産物がみつきり、見事にそれを証明し勝ちをもぎ取る事に成功しました。ですからレース1の失敗から掴んだものは大きいです。

ライダーを支えたメカニックやスタッフも本当に頑張ってくれました。毎晩他のチームが帰った後でもなんとか選手を勝たせようと妥協しない作業を徹底してくれました。感謝しております。

レース2で勝てた事は当然嬉しいのですが、チームがまた1つ成長出来た事にもとても嬉しく思っております。今後もまた一回り成長したTRICKSTARレーシング、山本選手と田中選手の活躍に期待して下さい。

チーム代表 鶴田竜二

